

コロナワクチン接種について

コロナワクチンの予防接種を実施するにあたって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため予診票はできるだけ詳しくご記入ください。なお、未成年の場合は、健康状態をよく把握している保護者をご記入ください。

コロナワクチン予防接種の副反応

予防接種の注射接種部位の痛み、腫れ、赤み、疲労（倦怠感）、頭痛、筋肉痛、関節痛、発熱、悪寒などが現れることがあります。通常、翌日をピークに数日以内に治まってきます。非常にまれにアナフィラキシー（重度のアレルギー反応）などの急性症状がありますが、これらは通常、接種後まもなく現れるため、医療機関で一定時間待機することで迅速な対応が可能です。症状が重い場合や数日経っても治まらない場合は、医療機関や自治体の相談窓口の利用が推奨されています。

予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱がある方（一般的に、体温が 37.5℃ 以上の場合を指します。）

※平熱が低い方で、平時より明らかに高い場合も含みます。

- (2) 重篤な急性疾患にかかっており、治療を優先すべき状態の方。

- (3) コロナワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーなど重度の過敏症の既往歴がある方。

【アナフィラキシー】

接種後通常 30 分以内に起こる激しいアレルギー反応のことです。発汗、急激な顔の腫れ、全身にひどい蕁麻疹（じんましん）が出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応のことです。

- (4) その他、医師が不適当な状態と判断した人

(1) ～ (3) に該当しない場合でも、医師が接種不適当と判断した場合は接種できません。

予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談をしなければならない方

- (1) 免疫不全の診断を受けている方、または近親者に先天性免疫不全症がいる方。
- (2) 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患などの基礎疾患の治療を受けている方。
- (3) 過去の予防接種で、接種後 2 日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギー症状が出た方。
- (4) 過去に痙攣（けいれん）を起こしたことがある方。
- (5) 抗凝固療法を受けている方、血小板減少症や凝固障害のある方。

（筋肉注射による出血に注意が必要なため）

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1) 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしてください。
- (2) コロナワクチンの副反応の多くは、翌日にかけて出ることが多いため、特にこの期間は体調に注意してください。
- (3) 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめてください。
- (4) 接種当日の激しい運動運動や大量飲酒は控えてください。

他のワクチンとの同時接種

新型コロナワクチンとインフルエンザなどの他のワクチンとの同時接種は、医師が必要と認めた場合に可能です。他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。